

10

滋賀県守山市

立命館守山中学校・高等学校

- 学科等 / 中高一貫・普通科
- クラス数 / 中学校16クラス、高等学校24クラス
- 生徒数 / 中学校488人、高等学校904人
- 建築主 / 学校法人立命館
- 所在地 / 滋賀県守山市三宅町250
- 工事種別 / 改築
- 敷地面積 / 61,182㎡
- 延床面積 / 22,719㎡
- 竣工 / 2010年12月

理科教育を中心に文理融合を支える施設

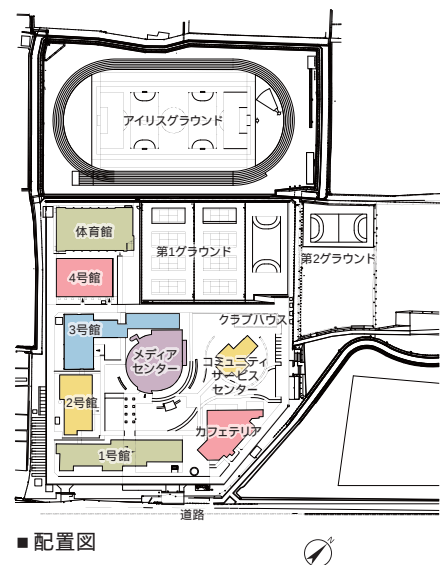
スーパーサイエンス・プログラムを柱に体験や実験を重視。キャンパスの中心に位置するメディアセンターを通じてさまざまな教科をネットワーク。高大連携や地域・企業から学ぶキャリア教育で柔軟な施設活用を行う。



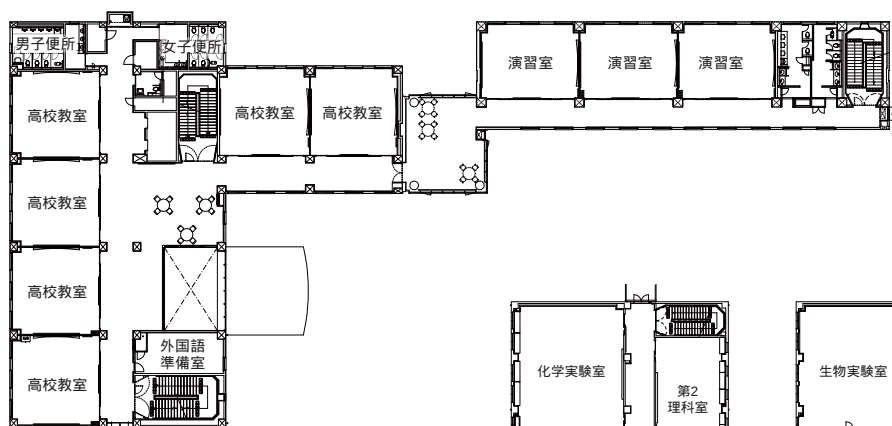
メディアセンターを中心に地域に開かれたキャンパス

計画に見られる 指針改訂のポイント

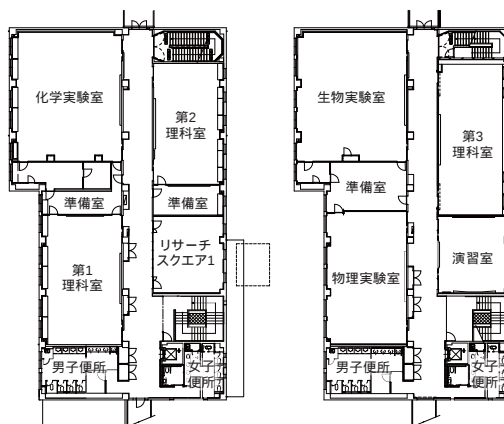
1. 理数教育の充実
2. 情報教育の充実
3. 言語活動の充実
4. キャリア教育・職業教育の充実



■配置図



■3号館2階平面図



■2号館 2階平面図

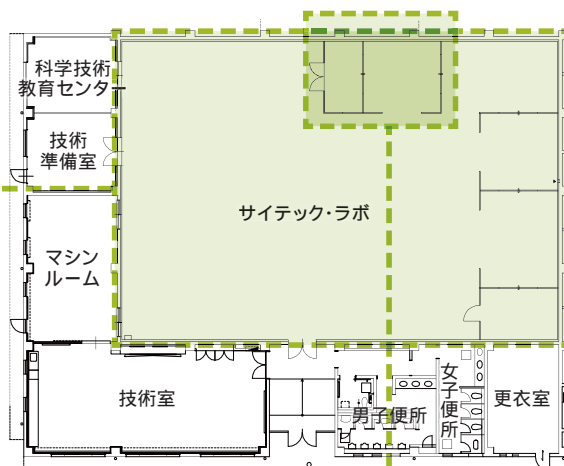
■2号館 3階平面図

1. 理数教育の充実

└ 実験・実習を通して、ものづくりから科学を学ぶ



1 サイテック・ラボ(科学技術工房) 体育館を改修した多目的な大空間。大型クレーンをはじめ、工具類を自由に使える工具・パーツブース、200インチの大型スクリーンを配置したプレゼンテーションコーナーを備える。



2 サイテック・ラボの平面図



3 サイテック・ラボでのものづくり パイオカートやロボットなど、実際のものづくりを通して、科学、環境についての知識と技能を実践的に学ぶ。



4 実験室 3人1組の実験を基本に、実験台をレイアウト。水道、ガス、電気設備と無線LANを配備し、講義形式の授業にも対応している。

校長の視点

理科教室の集中配備

理科教育は実験やものづくりを通して総合的に展開しています。高校に進学すると、全員がスーパーサイエンス・プログラムを履修。実験や体験重視のカリキュラムにより、理系志望者の割合が入学時と卒業時を比べて3割から4割に増えています。教育・研究活動を支える施設として、例えば理科実験室が計6室あり、中学校(1号館)と高等学校(3号館)の両方から利用しやすい2号館に集中配置しています。生徒用実験台は3人1組を

基本に水道・ガス・電気コンセントを配備し、無線LANや電子黒板等のAV設備を充実させています。(写真4)

“ものづくり”から科学を学ぶ 科学技術工房「サイテック・ラボ」

サイテック・ラボは、「科学」と「技術」の総合教育を実践する施設で、ものづくり教育の拠点です。体育館を改修した大空間は電動クレーンを備え、落下運動や放物運動等の物理実験や大型工作物の製作等が行えます。本校では、地域や企業と

連携したものづくりや現物・現場から学ぶ多彩なプログラムを展開しています。例えば、「サイクルテック講座」では、自転車を題材に大手企業の研究開発者から構造や力学を、地域の自転車商業協同組合の技術者から分解組立を学ぶことにより、科学と技術が融合した教育を実践しています。(写真3、図1～2)

図書・情報の要 「メディアセンター」

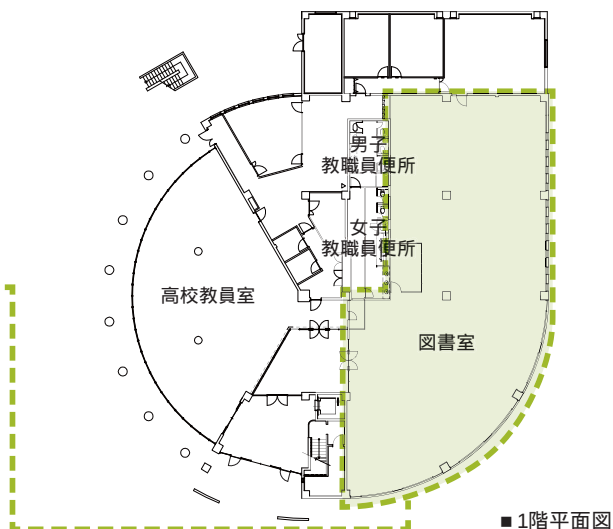
キャンパス中央にあるメディアセンター

2. 情報教育の充実

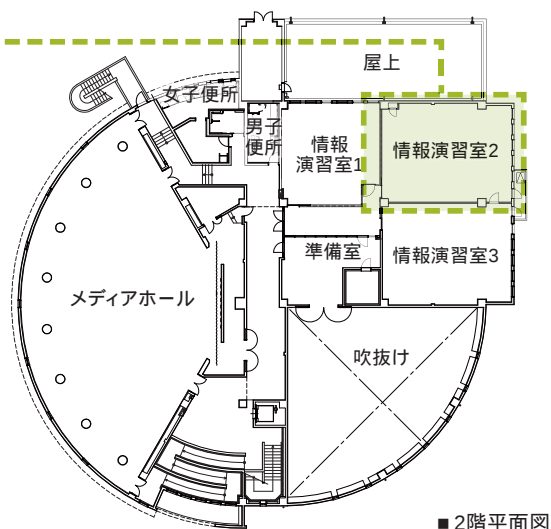
「メディアセンターを中心とした情報教育環境の充実」



5 図書館 中庭を望む落ち着いた閲覧室のほか、ブラウジングコーナーや検索用コンピューターを備える。教員室と隣接しており、学習相談・質問に迅速に対応できる。



6 情報演習室 44台のコンピューターを配置した情報演習室が3室あり、授業及び課外活動で活用されている



7 メディアセンター キャンパスの中心にある円形の建物。1階に高校教員室と図書室、2階にホールと情報演習室を配置。教育の核として、周囲の建物と回廊で結ばれている。

は、周囲の建物と回廊で結ばれ、1階には高校教員室と図書室、2階には340名収容のホールと情報演習室(3室)を配置。情報機器は各実験室やリサーチスクエアにも配備し、生徒の課題研究等を支えています。また、立命館大学と連携した「アドバンスト・プログラム」では、大学教授を招き、専門的授業を実施。クラス規模(40名)を超える授業は、2号館の講義室(72名収容)やメディアホール(340名収容)を活用しています。(写真9、図7)

キャリア教育や国際教育を支える施設

本校の特色である高大連携プログラムや地域・企業の様々な分野の「達人」から学ぶキャリア教育をはじめ、英語での発表やディスカッション等を通して論理的思考力や問題解決能力を身につけます。メディアセンターは、調査研究やグループ討議を行なう場所として不可欠です。(写真8、図7)

教職員の視点

座学と実践を結ぶ施設

明確な目標を見出し、将来に向かって専門性を探究してゆくためには、自ら考え、解決する力が必要です。サイテック・ラボや理科実験室は、座学と実践を結んだ授業ができる施設設備と配置の工夫が施されています。(写真3、図1～2)

教員室を擁するメディアセンター

各教科におけるレポート作成や自主学習等を支える施設環境を整えています。例

3.言語活動の充実

「発表力を高める施設環境



8 習熟度別少人数制の英語の授業。発表準備にはメディアセンターやリサーチスクエアを活用。

4.キャリア教育

「高大連携や地域連携に対応



9 メディアホールでの大学教授による高大連携プログラム。



10 リサーチスクエア メディアセンターのサテライトとして、グループ単位で調べ学習ができるように机とパソコンを配置。ガラス張りオープンな環境。

えば高校3年生の文系では卒業論文を、理系では卒業研究の論文を課していますが、メディアセンターでは図書館の文献や資料はもちろん、パソコンと情報ネットワークの整備により自発的学習に対応しています。(写真5、図7)

情報教育を支える体制

大学施設に準じた情報演習室を目的別に3室設けています。各室には、それぞれ44台のコンピュータを配置し、正課授業や課外教育に対応しています。コンピュータの

管理には、専属の管理者が常駐。トラブルへの対応や機器の使用方法的説明等、教員の授業を支えています。(写真6)

自主学習の場「リサーチスクエア」

リサーチスクエアはメディアセンターのサテライトとして機能しています。少人数のグループ学習や調べ学習に適応し、コンピュータやプリンタ、科学雑誌などを配置。サイエンス教育やキャリア教育、国際教育など幅広い自主学習の場となっています。(図10)

設計者の視点

既存大学校舎を中学校・高等学校にコンバージョンしました。キャンパスの配置計画はメディアセンターを中心に分散している校舎・改築校舎を回廊により結び生徒が円滑に移動できるようにしました。教室前の廊下にはゆとりあるコミュニケーションラウンジとして生徒同士、先生と生徒との交流空間を確保し、また、生徒の自習学習の場として随所に「リサーチスクエア」を設けました。

(設計/安井建築設計事務所)